

# 豊潤の里 だより

## 「民間による産業廃棄物最終処分場建設」 阻止に向けて

### ～11.10 学習会・反対署名スタート～

去る 11 月 10 日(土)19 時から 21 時前まで木谷小学校体育館で、産業廃棄物最終処分場建設阻止に向けて第 3 回学習会を開催しました。講師は、「三原・竹原市民による産廃問題を考える会」の三原代表をされている岡田和樹さんで、土曜日の夜にもかかわらず 100 名を超える参加者がありました。今回の内容は 2 つあり、1 つ目は岡田さんの講演から本郷処分場建設反対の運動から学ぶことと、もう 1 つは住民の方の意見交換でした。

講演の中で、三原市本郷町南方(日名内峠)に計画されている産業廃棄物最終処分場建設阻止に向けての住民運動をどう進めているかの報告がありました。その中で住民一人ひとりが後々の世代にわたって命が危ないという危機感を持ち反対運動を進められ、その結果 3 万人を超える反対署名を集められていました。

本郷処分場の大きな問題点は水源の汚染だそうです。予定地は三原市と竹原市の境付近で、それぞれ支流を流れて沼田川と賀茂川に水が流れ出ます。各市民の飲料水・農業用水・井戸水にも利用され、まさに「命の水の源」です。その命の水を守る運動が三原・竹原市民の手で広げられていることに敬意を表したいと思います。

この反対署名は 11 月 20 日に広島県に提出されました。民間企業が提出している処分場建設のための本申請却下に向けてどれほど影響を与えられるか、これからが正念場となります。共に連帯して頑張っていけたらと思います。

後半の意見交換の場では、初めに赤崎地区の大成秀和さんから、豊かな自然を守るために、次のような趣旨で反対意見が述べられました。

- 民間企業や管理型処分場への不信任感
- 産廃ゴミの中身及びチェック体制への不安感
- 「風評被害」によるダメージの甚大さ

⇒ 4 人の若者が木谷へ移住し農業で生きていこうとしている・・・等

他には、

- 東広島市として処分場建設の方向性 ⇒ 最終処分場は作らない方向
- なぜ木谷にいくつも処分場ができるのか。  
⇒ 今現在最終処分場があるから、周辺住民の抵抗感が低いと思われる。
- 安芸津町内の各自治協へも反対運動を広げていくべき。
- 吉名自治協へも署名を。
- PTA にも協力を。

など、多くの意見や質問が出され建設反対に向けての機運が高まりました。

最後に会場内から「早く署名用紙を」の声が上がり、参加者全員に配布しました。後日、地域センターには「署名用紙がほしい」「署名を持ってきた」と尋ねて来られる方の姿が多く見られるようになりました。私たち住民一人ひとりが後々の世代にわたって命が危ないという危機感を持ち反対運動を進めていきましょう。



## 安芸津最終処分場について

## 1. 産業廃棄物管理型最終処分場の計画内容

- ◆ 事業者名・・・(株) 栗本ホールディングス (広島市西区南観音 7-14-20)
- ◆ 施設の種類・・・産業廃棄物 (管理型) 最終処分場
- ◆ 設置場所・・・広島県東広島市安芸津町木谷赤崎地区
- ◆ 産業廃棄物の種類  
燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、ダスト類 (ばいじん)、紙くず、木くず、繊維くず、動物性残さ、廃石綿等 (※注 アスベスト)
- ◆ 事業期間・・・平成 33 年 10 月から平成 48 年 9 月末日まで (15 年間)
- ◆ 規模・・・処分場 (造成) 面積 8h、埋立て面積 3.8h、埋立て容量 88.9 万 m<sup>3</sup>
- ◆ 運搬車両・・・大型車両 25 台/日 (事業者が県に提出した事前協議書から抜粋。注はなし)

## 2. 主だった経緯

(数年前から業者による最終処分場建設の計画があり、地権者への接触は行われていた)

- 2017 年 1 月 12 日 栗本ホールディングス (以下栗本 H) が木谷自治協三役に説明。
- 2017 年 8 月 29 日 栗本 H が事前協議書を広島県西部東厚生環境事務所へ提出。
- 2017 年 9 月 29 日 栗本 H が地権者への説明会を実施 (農産物加工センター)。
- 2017 年 10 月 30 日 事前協議書に係る回答を東広島市が広島県西部東厚生環境事務所に提出。
- 2017 年 12 月 16 日 栗本 H より木谷自治協三役 & 町内の市議会議員 3 名に説明。
- 2018 年 1 月 18 日 廃棄物埋立てについての勉強会実施 (自治協幹事会対象)。
- 2018 年 3 月 4 日 第 1 回学習会実施 (約 100 名参加)。東広島市環境対策課より産業廃棄物処理施設について説明。計画内容や施設など、質問や意見が多数。
- 2018 年 3 月 31 日 赤崎地区区長会総会にて「安芸津産業廃棄物処分場建設反対のアピール」が採択。
- 2018 年 5 月 1 日 東広島市産業対策課より説明 (3/4 学習会で出た質問・要望に対する回答説明)
- 2018 年 5 月 2 日 木谷自治協幹事会にて協議。処分場建設反対に向けて動くことを確認。
- 2018 年 5 月 9 日 木谷自治協議会総会にて処分場建設反対について決議。
- 2018 年 5 月 28 日 西部東厚生環境事務所に学習会への出席依頼。
- 2018 年 6 月 30 日 第 2 回学習会実施 (約 140 名参加)。講師は県立広島大学西村和之教授。産廃問題と環境への影響について質問や意見多数。
- 2018 年 8 月 16 日 自治協内に産廃処理施設反対実行員会設置。具体的な取組の協議に入る。
- 2018 年 9 月 27 日 第 2 回産廃処理施設反対実行委員会で協議。安芸津漁協との連携。
- 2018 年 10 月 9 日 赤崎地区より署名活動開始。
- 2018 年 11 月 10 日 第 3 回学習会・意見交換会実施。本格的に署名活動スタート。  
「三原・竹原市民による産廃問題を考える会」代表 岡田 和樹 氏。



# 10/21 ホ谷フェスティバル



伝統ある大名行列で知られる木谷の祭り（重松神社秋季例祭）が、十月二〇日から二日間行われました。二十一日にはその例祭を応援する木谷フェスティバルが開催され、天候にも恵まれて四百名を超える来場者で賑わいました。

（写真左）お旅所のある砂原公園へ向かう道中で、元気いっぱい若い担ぎ手が厄払いと豊作を祈願して力強く神輿を振り回しました。



行列には神事の舞いをすませた巫女も加わり、華やかさが一段と増しました。



フェスティバル会場に入って来た子供神輿。元気な掛け声とともにお旅所の周りを回りました。

# 10/27 教育講演会「木谷への思い」



講師：甲斐 直樹（かい なおき）氏  
千葉県から移住し、赤崎地区で農業経営



今回は、千葉県から移住してこられた甲斐さんから体験談や抱負を聞き、「木谷の良さ」を再発見することができました。

（講演の要旨）木谷に住んで7年目、農業を始めて5年目。現在はみかん、レモン、じゃがいもを栽培。農家の生れではなかったが、アルバイトで野菜農家の手伝いをしたことを契機に農業に興味を持ち、沖縄県西表島（いりおもてじま）や茨城県、宮崎県で様々な農業を経験し縁あって木谷に定住。木谷は温暖で風光明媚なことはもちろん、地域の人たちが温かさに満ち、安心して暮らせる場所。今後これからも農業を志す人への支援や地域に役立つことに取り組んでいきたい。

福祉生活部会

部会活動紹介



10/23 木谷小学校のプランターの土を入替え  
小学校の花壇を彩った鉢植えの花々。来年もきれいに咲いてくれますようにと、土に肥料を混ぜてプランターに詰めました。

＜木谷地区社協「蛟龍」と学校関係者＞



11/2 高齢者と児童が「合同ふれあいサロン」で交流  
木谷小の1～3年生の児童と高齢者が交流を図る催し。ケアハウス赤崎さざなみ荘の入居者5名を含む地域の高齢者50名が参加。年齢の垣根を越えて笑顔が広がりました。 ＜木谷地区社協「蛟龍」＞

環境衛生部会



10/28 今年最後の郷川美化(アダプトNETひろしま)  
ホタルが生息する川をきれいに保つことを目的として始められた郷川美化活動。今年7月の豪雨災害で1回分が中止となりましたが、今年最後の活動には16名が参加して草刈りをしました。

＜木谷地区公衆衛生推進委員会＞

その他



10/25～10/27 平井弘光絵画展が開催されました  
平井さんは木谷小学校の卒業生で、会社を定年退職後に画家を志し、現在「東光会」会員として活躍されています。期間中は、お弟子さんの絵も含め37枚の作品が、木谷小学校の屋内運動場に展示され、来場した人たちが思い思いに鑑賞していました。

＜平成31年1月までの各部会の主な活動予定＞

福祉生活部会	12月 4日(火)	木谷小学校校内持久走大会支援 ＜木谷地区社協・蛟龍＞
	12月 21日(金)	木谷保育所おたのしみ会 ＜木谷地区社協・蛟龍＞

木谷の人口(住民基本台帳)	世帯数	人口(男女計)	男	女
平成30年10月末現在	696	1,607	778	829
平成29年10月末との比較	-2	-29	-15	-14